

Report

# 大規模修繕工事の報告

**就** 労継続支援A型事業所 福祉工場かがみのは、平成5年4月開所してから20年経過し、老朽化したため、高知県障害児・者施設整備事業費補助金を利用して大規模修繕工事を行いました。

平成24年11月30日に着工し、翌25年3月12日に竣工しました。

高橋 徹洋



工事に伴い周辺の方々にはご迷惑をおかけしましたが、ご理解とご協力により無事終了しました。

工場が生まれ変わり、心機一転気持ち新たに、丁寧に誠実な仕事を行っていきたく思います。

就労継続支援A型事業所 福祉工場かがみの

Report

# 平成24年度 社会福祉法人 高知県知的障害者育成会 決算書

区分	勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
収	001 就労支援事業収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	002 就労支援事業支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	003 就労支援事業補助金収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	004 就労支援事業補助金支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	005 就労支援事業補助金収入(1)-(1)-(2)	0	0	0
	006 就労支援事業補助金収入(2)	0	0	0
	007 就労支援事業補助金支出(2)	0	0	0
	008 就労支援事業補助金収入(3)	0	0	0
	009 就労支援事業補助金支出(3)	0	0	0
	010 就労支援事業補助金収入(4)	0	0	0
支	011 就労支援事業支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	012 就労支援事業補助金収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	013 就労支援事業補助金支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	014 就労支援事業補助金収入(1)-(1)-(2)	0	0	0
	015 就労支援事業補助金収入(2)	0	0	0
	016 就労支援事業補助金収入(3)	0	0	0
	017 就労支援事業補助金収入(4)	0	0	0
	018 就労支援事業補助金支出(1)-(1)-(2)	0	0	0
	019 就労支援事業補助金支出(2)	0	0	0
	020 就労支援事業補助金支出(3)	0	0	0

区分	勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
収	021 就労支援事業収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	022 就労支援事業支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	023 就労支援事業補助金収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	024 就労支援事業補助金支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	025 就労支援事業補助金収入(1)-(1)-(2)	0	0	0
	026 就労支援事業補助金収入(2)	0	0	0
	027 就労支援事業補助金収入(3)	0	0	0
	028 就労支援事業補助金収入(4)	0	0	0
	029 就労支援事業補助金支出(1)-(1)-(2)	0	0	0
	030 就労支援事業補助金支出(2)	0	0	0
支	031 就労支援事業支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	032 就労支援事業補助金収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	033 就労支援事業補助金支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	034 就労支援事業補助金収入(1)-(1)-(2)	0	0	0
	035 就労支援事業補助金収入(2)	0	0	0
	036 就労支援事業補助金収入(3)	0	0	0
	037 就労支援事業補助金収入(4)	0	0	0
	038 就労支援事業補助金支出(1)-(1)-(2)	0	0	0
	039 就労支援事業補助金支出(2)	0	0	0
	040 就労支援事業補助金支出(3)	0	0	0

区分	勘定科目	本年度決算	前年度決算	増減
収	041 就労支援事業収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	042 就労支援事業支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	043 就労支援事業補助金収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	044 就労支援事業補助金支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	045 就労支援事業補助金収入(1)-(1)-(2)	0	0	0
	046 就労支援事業補助金収入(2)	0	0	0
	047 就労支援事業補助金収入(3)	0	0	0
	048 就労支援事業補助金収入(4)	0	0	0
	049 就労支援事業補助金支出(1)-(1)-(2)	0	0	0
	050 就労支援事業補助金支出(2)	0	0	0
支	051 就労支援事業支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	052 就労支援事業補助金収入	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	053 就労支援事業補助金支出	120,484,763	121,695,937	△1,209,174
	054 就労支援事業補助金収入(1)-(1)-(2)	0	0	0
	055 就労支援事業補助金収入(2)	0	0	0
	056 就労支援事業補助金収入(3)	0	0	0
	057 就労支援事業補助金収入(4)	0	0	0
	058 就労支援事業補助金支出(1)-(1)-(2)	0	0	0
	059 就労支援事業補助金支出(2)	0	0	0
	060 就労支援事業補助金支出(3)	0	0	0

(単位:円) 1頁

# わだち 轍 Vol.2

発行: 総合支援センターかがみの 社会福祉法人 高知県知的障害者育成会 〒780-0028 高知県南国市陣山531-1 TEL088-855-3717 FAX088-855-6181  
 発行責任者: 福永康夫(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会) 編集責任者: 下元義孝(社会福祉法人 高知県知的障害者育成会) 印刷: 社会福祉法人 すずめ共同作業所

## 親の会活動の活性化に向けて

平成25年3月29日の理事会において、「これからの親の会の役割は我が子だけでなく、本人と家族の幸せを求めて、親が生きている間にできることを事業所を含め楽しくしていくことが大切」と親の会の方向性が示されました。

今日、高齢化が進み活動が停滞気味である、若い会員が加入しない、役員のなり手が少ない、世代交代が難しい、明確な活動の目標がつかみにくいなど親の会活動が困難な局面にあることが語られます。第61回の高知大会でも、第46回岡山大会の開催時に比べると、親の会会員の参加が減少していると危機感を訴える声も聞かれました。

一方、昨年の高知大会では、「一番つらかった時期はいつかを振り返ったとき、医師から我が子の診断名を告げられたときである。受容期がつかかった。幼児期、受容期に手をさしのべられないような育成会は存在価値はない。…新しい会員の対象の人たちは、この障害の受容期にある幼児期の保護者である。私の失敗談を語ることが参考になる」と浜松市の会員は熱っぽく育成会の在り方について語られました。

私はこの発言を聞いて胸が熱くなりました。親の立場でしか語るこ



社会福祉法人 高知県知的障害者育成会  
理事 岡田 哲夫

ができないことであるからです。これが高知でもできるのではなかろうか。今、受容期にある保護者たちのために役立ててもらうことはできないだろうかと考えています。

さて、「手をつなぐ親たち 第3号」(昭和28年9月15日)に「育成会号」(昭和28年9月15日)に「育成会のこと(筆者)が結成されたことは、一人の悩みが多くの人の悩みとしてとり上げられ、絶望が希望に転換されるという意義があった。…しかしこの会は単に悩める人達が集まるべきではない。その内容は、世人の啓蒙と「どうしたらいいか」という具体的な道をさし示すことである。親たちの悩みも、この建設的で具体的な方向においてしか救われないのである。…まず第1に、運動

の中心に支部をおくこと。支部の活動があって初めて本部はその任務を果たし得る。…第2に、…各地に相談室を設けて、個々のケースについての親同士の理解と協力が実現するように運んで行かねばならない。…最後に、育成会はいくまでも「親の会」である。無告の子に代わって親が結成した会であることを努(ゆめ)忘れてはならない。

それから60年の歳月は流れました。今日では21世紀は人権の世紀と言われるように、親としての立場だけでなく、本人たちが主人公として表舞台に登場し、全ての人々と共に生きる社会の実現を目指すところまで歴史は動いてきています。

今一度、原点を見つめ、できることから、少しずつでもいいから、親の会活動を前進させていきたいものです。

Message

## 福祉工場かがみの 長谷川 裕俊さん 若い方の資質向上が課題

福祉工場かがみので支援員として活躍している長谷川さん。入社から12年、堅実に仕事をされる長谷川さんに、「今、力を入れていること」についてお聞きしました。

一福祉工場の取り組みは? 平成5年4月よりスタートし、現在乾燥ニクや生姜の食品加工

事業とビル清掃等メンテナンス事業を主な仕事として取り組んでいます。

一福祉工場で力を入れていることは? 今年4月より社員の給与アップを行いました。作業量の拡大を行いました。その対価として給与のアップに結び付けていくというものです。既存の作業量に甘んじることなく、より多くの作業量を獲得し、現在の社員数で乗り越えていけるように、個々の力量を見極めながら職業指導と適正配置を行い、作業内容の精査と作業効率を検討しながら実施しています。

一そのような目標を達成するために苦勞されていることもありますが? 社員の中には福祉工場に長年勤務をしている方がおられ、平

均年齢も徐々に上がってきています。これからの事を考えると全体の底上げとして、若い方の資質向上が必要になってきます。

昨年高校卒業した2名の方が入り、2年目を迎えました。今までは違う社会人という立場、学校とは全く違う仕事場という環境に入ってきました。昨年は本人の作業状況を確認し、配置替えを行いながら適性を見ました。一年が過ぎ、環境にも少ずつ慣れつつあるように見えてくるのではないかと思います。仕事面だけではなく、生活面も含めた両面を支援していきたく思います。

福祉工場は、挨拶や身だしなみ、職場でのマナーやルールといった仕事面だけではなく、睡眠時間や食事、入浴、余暇の過ごし

方などの生活面の支援や、『就労とは何か』『給与を得るためには何をしなければならないのか』といった目標や目的をしっかりと持てるように支援することもとても重要な役割と思っています。

一社員の皆さんに対しては? 卒業したばかりの彼らや社員の皆さんは、職員から言われ、やらされていると感じているかもしれないですが、10年後・20年後に本人が希望する仕事・生活が実現するための基礎となるものを学んでもらいたいと思っています。

個別支援の場だけではなく、何気ない会話の中からもコミュニケーションを図り、より以上の信頼関係へと広げ、夢に向かって仕事への意欲や意識に繋げていけるように力を入れていきたいと思っています。



●御家族にお聞きしました。一家族から見て、福祉の仕事のようにお感じになれますか? 「制度や仕組みの事はよくわからないのですが、障害のある方の生活や人生を支える大変な、根性のいる仕事だと思っています。」

一ご主人(お父さん)の今を、どのように感じておられますか? 「仕事で疲れていると感じる時もありますが、仕事と家庭のバランスをとりながら頑張ってくれています。私もできる限り理解し、協力していきたいと思っています。身体にも十分気をつけて、これからも障害のある方や家族のためにも頑張ってください。」



Work 吉田 恭介さん

# 「やってみんとわからん ～生まれ育った町で働きたい!」 をサポートする

**朝** 活気溢れるセリの声が響きわたる赤岡青果市場の一角にある加工場(冷蔵所)で真新しい制服に身を包み誇らしげに作業に勤む吉田恭介さんの姿があります。

吉田さんが香南くろしお園の利用を始めたのは平成23年の事です。出会った当初、吉田さんは一人暮らしの中「特に何もしていない生活」を送っていました。今後の事について就労ワーカーさんをお話し合いをした際「家にずっと居てもいいか」「友達をつくり出来ることをしながら「働きたいです」と今までの生活を変えていきたいといった気持ちを話してくれました。

香南くろしお園では清掃活動を

中心に作業をされ、その優しい人柄もあり、すぐに利用者間での中心人物になりました。過去に一般就労をされていた事もあってか、作業に対する意識も高く「やってみんとわからん」「とにかくチャレンジです」を座右の銘?に作業や余暇など様々な事にも積極的に取り組んでいました。事業所での新しい生活に慣れてきた頃、吉田さんは入院しました。健康診断の結果、生活習慣を見直すよう医師からの指示が出されての事です。順調に進んでいた矢先の出来事に、働く上で生活基盤(食事・健康情緒の安定・等)を整える事がどれだけ重要なかが思い知らされました。吉田さんの「働きたい」を

サポートするために職員間で話し合いをした結果、事業所での作業支援に加え、生活が上手く営んでいけるよう家庭訪問などを行い、独居での生活状況の確認を進めるとしてしました。吉田さんの思いは「自分でできることは自分でです」。医師から指示のあった食事改善についてはボランティアさんの協力を得ながら調理方法を一から教えて頂きました。吉田さんボランティアさんともに始めは不安が大きかったのですが、回数を重ねるにつれ信頼関係も深まり、今ではすっかり相談事を話せる関係になっています。また、地域活動支援センターでの調理学習にも参加し、料理の腕を磨くとともに同じ目標を持つ仲



間との交流も重ねました。「男一人暮らしで煮物が苦手」と話していたのもいつの事か、得意料理として出していた煮物は絶品です! 約1年半、作業支援と生活支援を図る中、吉田さんからは「経済的にも自立したい」といった言葉がよく出るようになり一般就労を支援目標に掲げることにしました。就労支援にあたってはハローワークをはじめ県就労支援チームとも連携を図り「委託訓練事業」を活用することになりました。訓練期間の3ヶ月、吉田さんが不安を感じていた生活づくりについては、関係機関と連携し継続的にサポートを続けました。実習先である赤岡青果市場は「障害のある人への就労」

に対して非常にご理解が深く、吉田さんに対して担当の指導者を専属でつけて頂きました。緊張いっばいで始まった実習ですが、職場担当者を設けて頂く事で職人として適切な仕事内容を教えて頂くのはもちろん「困った時、だれに相談する」といった事が明確になり、安心して実習に取り組めました。訓練終了のケア会の中、職場からはその勤務姿勢に高い評価を頂きました。吉田さんからは「定年まで頑張っていきたいです」といった言葉があり、訓練終了と同時に無事に就職する事ができました。

吉田さんにこれからの目標を伺うと「自分にできる事は何でもチャレンジしていきたいです」と笑顔で話さ

赤岡青果市場

大正12年創業、有限会社、協同組合を経て昭和51年10月1日に株式会社として設立した高知県東部の公認地方卸売市場です。扱っている品目は地元産の野菜、果物が主体であり、委託品は全品セリにより販売しています。落札品は仲買人、買参人を通じて県内はもとより、その大半は関東、関西、北海道等、全国各地へ出荷流通されています。現在赤岡青果市場では障害のある5名の方が働かれています。



れます。ふりかえると、吉田さんは事業所での生活を通じて、地域の色々な人とつながっていったように思います。その中で「人との関わりを深め」「悩みを相談し」「安心できる人間関係を築いていった」のではないかとそう感じています。

多機能事業所香南くろしお園 後藤直温

Art 田内 直也さん

# 真っ直ぐな性格と、鋭い感性の結晶

**か** がみの育成園には、タミー壹ほどの書をはじめ、はかぎの大きさに絵が描かれたカレンダーなど利用者の作品が飾られています。

その中でしっかりと画調で独特の感性あふれた作品があります。鑑賞する人の心を惹きつける魅力ある作品です。

その作品の作者は、田内直也さんです。

人とのコミュニケーションが苦手、場の空気を読むとか、お話しするとか、質問に答えることが苦手な自閉症の方です。

3歳頃より絵や文字、音楽等に興味を示し、東京在住時に電車

やバス等の乗物の記憶に長く、地下鉄等の列車の色や形はすべて記憶するなど記憶力が驚くほど優れています。また、ルールや手続きを忠実に守り、集中力がとてもある方です。

かがみの育成園では、利用者の潜在的な能力を少しでも引き出し、想像力や創作力を活かして作品作りにつなげようとして取り組んでいます。

田内さんは、当初電車の絵が多かったのですが、季節の花々や四季折々の出来事などを画題とした絵へと広がりを見せるようになってきました。また、絵に文字を入れ、絵と心の両面を描くよう

な作風となってきました。力強く迷いのない筆運びや配色は、真っ直ぐな性格と鋭い感性の持ち主であると感じることが出来ます。

2010年、毎年高知県スピリットアート展に出展したことを契機に、入賞する機会が増えてきました。

絵画以外にも書道や一閑張、工芸品等々の創作活動にも意欲的に取り組んでいます。日頃描き溜めた絵画や書などの作品を皆さんに披露するため、2012年に個展を開催。初めての経験でした



が、この経験を通して一層創作活動の励みになった様子です。

今年は、同じ創作活動の仲間と来年度のカレンダーの製作を行っています。自分たちの作品が少しでも多くの人の手元に届くことを願っています。

障害者支援施設 かがみの育成園 猪野英子



田内 直也さんの作品  
Naoya Tauchi's Artworks

People

# 清 水 安 子 さん 言葉の泉は 限りなく

**今** 回「People」に登場の清水安子さんは、ライフサポート「大津」のグループホームで生活する、41歳の明るい女性です。

特別支援学校高等部を卒業して、グループホーム入居利用と同時に、食品原料加工の会社に約20年勤務してきました。春はたけのこ、秋には栗と、季節を感じる食材と共に働いてきましたが、会社の業績などの事情があって、転職を決意したのが今年の春です。

会社を退職はしたものの、なかなか次の仕事は見つかるものではありませんが、就労支援担当者の支援と努力が実って有名レストランで働くことになりました。

とはいっても、すんなりと決まった訳ではなくて雇用に至るまでは実習、委託訓練制度を利用して、3ヶ月ほどの期間がかりました。作業とその流れを身に着け、職場の人たちの名前や顔を覚えて、安子さんは相当努力されたと思像に難くありません。彼女は良く言います「働いている方が良い」って。本当に安子さんは働き者なのです。

平成24年夏、就職活動と並行して、前年に続きよきこい祭りに参加しました。6月ごろから、夜間、休日を使用して練習を重ねて、8月本番に臨みました。

ご存知の通り、真夏に行われるこの祭りは、場所を移動しながらの演舞で、チームワークはもちろんのこと、自分の体力との勝負でもあります。同じチームのメンバーには倒れる人もいる中、汗かきの安子さん

は最後まで踊り切りました。最終の会場のイオンで見た彼女の満足そうな笑顔は忘れられません。

センターへは、求職活動中よりきてくれました。新しい仕事を始めてからも、レストランでの仕事とあって、公休は平日です。火曜日の昼ごろには、姿を見せます。ほら、今日も安子さんがやってきましたよ。聞こえます、彼女の声が。

「安子さん、今日は少し風邪声だね、だいじょうぶ?」

「風邪ひいて、医者に行ってきた。ただこの薬は苦くていかん。お医者さんに甘うしてって言ったら、あなた歳はいつかねえって言われた。苦い薬は嫌い。」

「昨日の晩は、職場の飲み会で焼肉屋にいったけど、9時から始まるんでグループホームの夕食を抜いて、お腹が空き過ぎて、お店に行ったら、もう食べられんようになってしまった。若い人はいいねえ、お肉が



足りなくてお代わりしよった。それに最後はみんなでチョコレートパフェを食べて。私はよう食べんかった。もう行かん!」

「山本さんとこの子は、もう大きゅうなったかね」「えもう4年生かい? そりゃあ、ようけお金がかかるね、山本さんもしっかりと働かんといかんね。」

安子さんは食べることも大好きです。エピソードの一つ。回転寿司に行った時のことです。目の前に流れてくるお皿から、彼女は一時目を離すことがありません。「これは好き、これはいかん」と一つ一つのお寿司にコメントを付けていきます。そして自分の好きなものをとって、さらに「山本さん、これ食べや」

と流れ来るお寿司から離れて座っている私のお世話もしてくれます。回転寿司なのにお寿司に目がいかず、安子さんのお話に夢中になれる、なんとも微笑ましい昼食でした。

私の貧弱な文才で彼女の幅広いテーマ、しかも抱腹絶倒な会話は書き表せません。いや、彼女はお話しに真剣なのです。相手がだれであれ、臆することなく言葉は発せられます。誰にだってそのベースは変わりません。感心させられるのは、相手によって話題を選んで変えるのです。相手に合わせた話題は彼女の気配りの細やかさを感じます。あたかも言葉が泉から限りなく湧き出てくるようです。

「ゆうあい」センターの職員は、安子さんが来てくれるのを楽しみにしています。彼女の言葉をきっかけに、生きていく上での元気や気づき、喜び、悲しみなど、いろいろなことを感じながら、ともに歩んで行っています。

就業・生活支援センターゆうあい 山本和久



Topics

# 尾崎知事 視察

**6** 月25日に高知県知事 尾崎正直氏が、平成25年度「対話と行脚」にて、かがみの育成園に来られました。

福祉施策の役割や現状について職員の話に傾聴され、施設を利用している方々の生活の様子を見学。園内にあるピザ釜

で焼いたピザを、利用者と一緒に食べながら談笑されました。

また、香美市・香南市・南国市・本山町による広域福祉避難所、障害者避難スペース整備事業による建設予定地も見られ、防災準備と連携について確認されました。



# ピザ釜の完成

**か** がみの育成園の中庭の一角にピザ釜を作り、完成しました。

平成24年に新しい園舎に変わり、日々の暮らしの中でゆとりのある時間を作るのをと寺石金物店様からピザ釜作成材料一式をご寄付頂き、ピザ釜を利用者と職員と一緒に約7日間の製作期間で作りました。

